

# 価値創造プロセス



パナソニック エナジーは、人財や技術などの多様な資本を活かして自社の強みを核に社会課題解決を推進し、持続的な企業価値向上を実現していきます。



持続的な企業価値向上に向けたさらなる資本の強化

# 価値創造の源泉である6つの資本(インプット)

パナソニック エナジーは、人的資本、自然資本、社会関係資本、知的資本、製造資本、財務資本の6つの資本を、企業価値を構成する重要な資本と捉え、企業価値の向上を図っています。

## 人的リソースの強化



国内・海外での事業拡大に向け、技術・モノづくり人財を中心に増強を図っています。また、人財一人ひとりが活きる制度・環境の整備や組織風土の醸成を通じて、事業競争力を強化しています。さらに、安全衛生活動や健康経営の推進により、従業員のウェルビーイング向上にも注力しています。

[人的資本]

グループ連結従業員数	海外人員割合	労災死亡者数
約 <b>1.9万人</b> →	<b>70%</b> →	<b>0人</b> →

## 電池の性能向上と環境負荷低減に対する研究開発強化



[知的資本]

高容量化などの電池性能の向上に加え、コバルトフリー化やニッケルレス化などレアメタル使用量の最小化に注力し、環境負荷低減に貢献します。また、未来の航空機の電動化を視野に入れ、軽量電池の開発も推進します。

特許保有件数

**9,100件** ↑

## 生産性の向上、品質・製品安全の追求



[製造資本]

人財育成や自動化推進などにより、各拠点の生産性の向上に取り組みながら、製品安全を最優先とした品質改革を推進します。また、拡大する電気自動車(EV)需要に対応するため、効率的に設備投資を行い、生産能力を拡大します。

グローバル製造拠点	重大な製品事故発生件数	設備投資額
<b>20拠点</b> →	<b>0件</b> →	<b>2,921億円</b> ↑

## 資源・環境問題への対応強化



[自然資本]

脱炭素化に向け、自社のCO<sub>2</sub>排出を削減し、社会におけるCO<sub>2</sub>排出量削減に貢献します。また、限られた資源を効率的に利用し、環境への負荷を低減させるため、脱炭素化と循環型社会の実現のいずれに対しても正の影響を最大化し、負の影響を最小化すべく、取り組みを強化しています。

CO <sub>2</sub> ゼロ工場*1	CO <sub>2</sub> 削減貢献量*2	工場リサイクル率*3
グローバル <b>14拠点</b> ↑	<b>1,271万トン</b> →	<b>98%</b> →

\*1 省エネ推進や再生可能エネルギー導入、クレジットの活用などにより、CO<sub>2</sub>排出を実質的にゼロとした工場

\*2 当社が提供する製品を導入いただくことで、導入されなかった状態(ベースライン)と比較して、お客様や社会のCO<sub>2</sub>排出の削減に貢献した量

\*3 自社廃棄物

## 持続可能かつ強靱なサプライチェーン



[社会関係資本]

様々なステークホルダーと協働し、人権・労働や安全衛生等への社会的責任を果たすとともに、電池材料のリサイクルや現地調達化の推進によって、安定供給を可能とする強靱なサプライチェーンを確立します。

人権労働自主精査実施率
<b>100%</b> →

## 営業キャッシュフロー創出と成長投資の拡大



[財務資本]

生産性の向上や合理化などにより収益体質を強化し、併せて生産能力を増加させていくことにより、将来の営業キャッシュフロー創出力を高めます。加えて、資本効率の向上も図っていきます。

総資産	営業CF
<b>13,735億円</b> ↑	<b>1,393億円</b> ↑
ROIC	
<b>14.6%</b> ↑	(米国IRA補助金による影響除くと <b>0.4%</b> )

# パナソニック エナジーのお役立ち(アウトプット)

パナソニック エナジーが提供する先端技術と多様な商品は、街の様々なところで利用されており、社会へのお役立ちを日々続けています。



## 宇宙

小惑星探査機「はやぶさ2」の回収カプセルに、環境変化に強いリチウム一次電池が使われています。

イラスト：池下章裕



## データセンター

バックアップ電源として、リチウムイオン電池を使用した、安全・長寿命で高信頼な蓄電システムが使われています。



## 商業ビル

誘導灯や非常灯に、長寿命が特徴のニッケル水素電池が使われています。



## 病院

高い安全性と信頼性が必要とされる医療機器にニッケル水素電池やリチウム一次電池など、様々な電池が使われています。



## 住宅

リモコンや時計など身近な商品に乾電池が使われています。また、最新式のガス・水道のスマートメーターに、長期信頼性のあるリチウム一次電池が使われています。さらに家庭用蓄電池にはリチウムイオン電池が使われています。



## 太陽電池システム

太陽光で稼働する海洋ブイの充電電池として、気温差が大きい過酷な環境でも使用可能なニッケル水素電池が使われています。



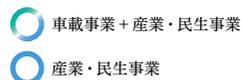
## 自動車

電気自動車の動力源に高容量かつ高安全が特徴のリチウムイオン電池が使われています。また、車と外部との通信を行うシステムであるTCUや車両の緊急通報システムであるeコールなどにニッケル水素電池が使われています。



## 自転車

電動アシスト自転車に高容量で小型・軽量が特徴のリチウムイオン電池が使われています。



# パナソニック エナジーの提供価値(アウトカム)

パナソニックエナジーは、ステークホルダーへ様々な価値を提供し、協働していくことにより、持続的な価値創造を実現しています。



## 低環境負荷の 社会の実現

EVをはじめとする、モビリティの電動化を促進することで、社会の脱炭素化に大きく貢献します。また、再資源化の拡大と廃棄物の抑制により、天然資源の消費を抑える循環型社会の実現を目指しています。

### 提供価値

#### 脱炭素化の実現

- CO2削減貢献量の拡大
- 電池生産時のCO2排出量の削減

#### 循環型社会の実現

- 天然資源の消費抑制
- 廃棄物の抑制

#### 幸せを追求するエナジーの提供

- 安心安全な暮らしへの貢献
- 子どもの学びへの貢献

### 主な取り組み

- 自社工場のCO2排出量削減
- 自社・社外再エネ活用
- 技術革新によるCO2排出量削減
- 再生材利用の促進
- リサイクル/リユース推進に向けた研究開発
- 社会貢献活動の推進



## 安心・安全な 電池製品の供給

お客様に安心・安全な電池製品を供給することで、EVの普及に貢献し、IoTやデータセンター、医療、ガス・水道メーターなど社会インフラを支え、日々の便利で快適な暮らしに役立っています。

### 提供価値

#### 車載分野

- 電池起因リコールゼロの安全性
- 高容量化による航続距離の伸長
- 低コスト化によるEVの普及

#### 産業・民生分野

- 高安全・高信頼
- 高容量・長寿命
- 小型化やワイヤレス化による生活利便性の向上
- 災害発生時の電源提供

### 主な取り組み

- 材料開発
- 体積エネルギー密度の向上
- 製品安全マネジメント
- 生産能力の向上
- レイヤアップ・新規市場の開拓
- 製品の安定供給



## 社会課題解決を通じて 共に成長

協業パートナーの皆さまとは、相互の信頼・協力のものと、購入品品質の維持・向上、競争力ある価格の実現、市場変化への対応を推進し、社会課題解決に向け研鑽しながら共に成長しています。

### 提供価値

- 協業による社会課題の解決
- 共に成長し続けるパートナーシップ
- 製品品質の維持・向上
- 競争力ある価格の実現
- 市場変化への対応

### 主な取り組み

- 材料の現地調達化
- 環境負荷の低い材料調達の推進
- CSRガイドラインの順守
- 自主アセスメントによるCSRリスク低減
- CSRに関する教育訓練
- 購入先様への支援
- 人権デュー・デリジェンス
- 責任ある鉱物調達
- 産学連携による共同研究の推進
- 各国政府と連携した事業推進



## 従業員の ウェルビーイング向上

多様な価値観を持つ従業員一人ひとりが、「安全」「安心」「健康」でエンゲージメント高く、生き生きと働くことのできる職場環境を創ることにより、従業員のウェルビーイング向上を図っています。

### 提供価値

- Mission / Vision / Will (MVW)への共感
- 挑戦と成長を加速させる人事制度
- 個人に応じた様々な研修制度
- 多様で優秀な人財の確保
- 一人ひとりの個性・経験・価値観の尊重
- 安全・安心な職場づくり
- 従業員の健康づくり

### 主な取り組み

- ジョブ型人財マネジメントへの移行
- 「進化の七道」の策定と取り組みの奨励
- Mission / Vision / Willの浸透施策「森の会議」の開催
- 賃金水準の引き上げ
- 社内向けフォーラムの実施
- 働きがい高める施策や働く場所の柔軟化
- 休暇制度の拡充
- 労働災害未然防止策の徹底強化
- 「ホワイト500」の認証取得(目標)

# 価値創造のための重要課題(マテリアリティ)

パナソニック エナジーでは、持続可能な社会に貢献するために、環境・社会・ガバナンス(ESG)の視点で当社が取り組むべき重要課題(マテリアリティ)を特定しました。

## マテリアリティ特定プロセス

当社は、7つのマテリアリティを以下の4つのステップで特定しました。

### Step ① 社会課題リストの作成

マテリアリティの候補となる社会課題を71項目リストアップしました。

### Step ② 当社視点での重要度評価

社会課題リストの各項目について、当社の視点で事業への影響度やポリシーとの関連性を評価しました。

### Step ③ ステークホルダー視点での重要度評価

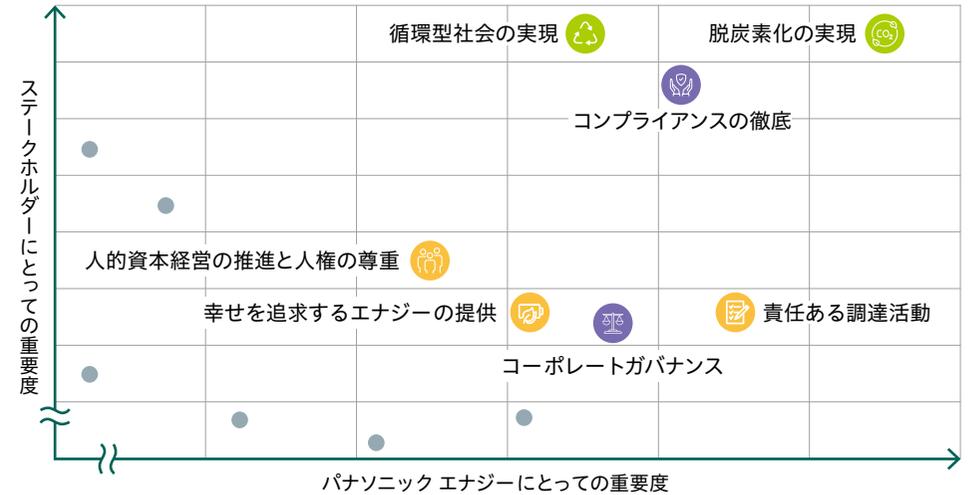
社会課題リストの各項目について、これまでステークホルダーとの対話で得られたご意見や投資家・評価機関の関心を踏まえ、あらゆるステークホルダーの視点から重要度を評価しました。

### Step ④ 審議・特定

ESG経営に対する考えや目指す姿を整理した上で、代表取締役を含む役員と関連部署の従業員との複数回の審議により、7つのマテリアリティを特定しました。

## マテリアリティマトリクス

当社にとっての重要度、ステークホルダーにとっての重要度の2つの観点で、社会課題を評価し、その中でも、重要度が高いものを以下にマテリアリティマトリクスとしてプロットしました。



## 特定した7つのマテリアリティと具体的な取り組み例

- 環境(E)に関するマテリアリティ
- 社会(S)に関するマテリアリティ
- ガバナンス(G)に関するマテリアリティ

**循環型社会の実現** (P.46)

- ・資源循環型サプライチェーンの構築
- ・資源循環型製品の開発
- ・廃棄物の削減
- ・リサイクルの推進

**人的資本経営の推進と人権の尊重** (P.53)

- ・労働安全衛生の確保
- ・人材育成の促進
- ・DEI (Diversity, Equity & Inclusion) の促進
- ・差別や児童・強制労働の防止

**コーポレートガバナンス** (P.62)

- ・取締役会、経営陣の機能強化
- ・透明性の確保

**脱炭素化の実現** (P.40)

- ・GHG (温室効果ガス) 排出削減
- ・社会のCO<sub>2</sub>排出の削減貢献
- ・再生可能エネルギーの利活用
- ・現地調達化

**幸せを追求するエネルギーの提供** (P.48)

- ・安心安全な社会への貢献
- ・貧困飢餓の撲滅
- ・地域社会への貢献

**責任ある調達活動** (P.60)

- ・責任ある鉱物調達
- ・サプライチェーンにおける人権尊重
- ・サプライチェーンマネジメント

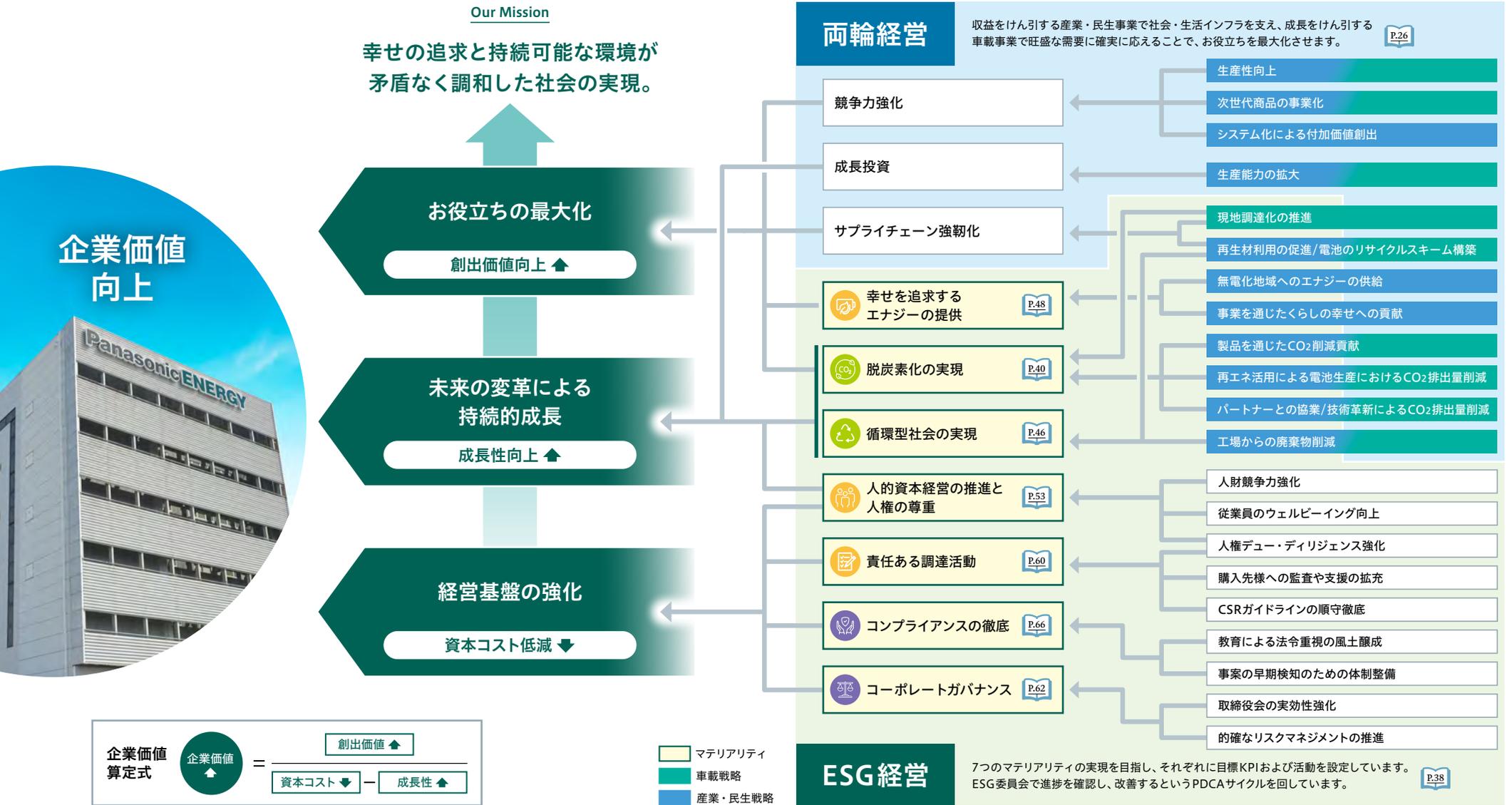
**コンプライアンスの徹底** (P.66)

- ・品質・製品安全の追求
- ・法律・規制の順守
- ・情報セキュリティの確保

# 企業価値向上に向けたプロセス

私たちは、企業価値向上に資する要素を「創出価値」、「成長性」、「資本コスト」の3つに分解し、それぞれの視点から財務・非財務両面の取り組みを推進しています。財務のパフォーマンスを高める「両輪経営」と、非財務のパフォーマンスを支える「ESG経営」に基づくすべての施策が余さず企業価値の向上につながるよう、取り組みを進めています。ESG経営のうち、「脱炭素化の実現」と「循環型社会の実現」の2つのマテリアリティを例に挙げると、電池生産におけ

るCO2排出量削減や製品を通じたCO2削減貢献、電池の循環モデルの確立などの施策は、社会全体が直面する気候変動や資源の枯渇への解として、「創出価値向上」に寄与します。併せて、その中で培われる技術力やパートナーとの関係性は、将来にわたる「成長性向上」のドライバーとなるものと言えます。このように各マテリアリティ・施策が複合的に作用することで企業価値の向上につながるものと考えています。



目指す姿  
 私たちのDNAと  
 価値創造  
 成長戦略  
 サステナビリティ  
 データセクション